

## 国語科 小学校第3学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	詩を楽しもう どきん いつも気をつけよう／つづけてみよう ◎擬声語・擬態語・文末表現の響きやリズムから様子を想像し、それが表れるように声に調子をつけて音読する。	読(1)ア 話・聞(1)イ・ウ 伝国(1)イ(オ)	2		語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。	○文章に書かれていることを理解して音声化するようにさせる。	自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。	
	1 音読しよう 「きつつきの商売」 ノートとなかよくなるろう 国語辞典のつかい方 ◎場面の様子や違いに注意しながら音読を工夫し、発表する。	読(1)ア・ウ 書(1)ア・カ 伝国(1)イ(ウ)(カ)	11 (+2)	物語文や説明文の読みの学習において、言語事項を使つての読み取りが弱いので、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むことが特に重要である。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、記述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	
	漢字の音と訓 ◎漢字には音読みと訓読みがあることを理解する。	伝国(1)イ(ウ)・ウ(イ)	2		小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使つたり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	春の楽しみ	伝国(1)イ(オ)	1		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。		文章の中での語句と語句との関係を理解する。	
5	しつもんをしたり、かんそうを言ったりしよう よい聞き手になろう きちんとつたえるために ◎話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりする。 ◎日常生活から話題を決め、適切な言葉遣いで筋道を立てて話す。	話・聞(1)ア・イ・エ 伝国(1)イ(ア)	4		相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。  大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。	○相手や目的に応じて丁寧な言葉を選ぶ力を付けられるようにさせる。  ○話の中心をとらえながら、確かめたいことを質問したり、自分の経験と結びつけて感想を述べたりするよう指導する。	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わる話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。  話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。	
	漢字の広場① ◎絵を見て、2年生までに配当されている漢字を使った文を作る。	伝国(1)イ(ク)・ウ(イ) 書(1)オ	2		小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使つたり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	

	2 <u>読んで、かんそうをもとう</u> 「イルカのねむり方」 「ありの行列」 ◎文章全体の構成「はじめ・中・おわり」を把握し、「段落」について知り、それぞれの段落の内容をとらえる。 ◎「何が」「どのように」書かれているか、「調べたこと」「考えたこと」など細かい点を読み分ける。	読1イ・エ・オ 書1ウ・カ 伝国1イ（ク）	10 (+2)	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことは、3学年の指導内容であり、段落の内容をとらえる力が弱いので、確実に身につけさせる必要がある。	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。  文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。	◎筆者の意見と裏付ける事実や根拠を読むようにさせる。  ◎互いの感じ方や考え方の違いに気付くようにさせる。	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんそうする。  本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。
	<u>声に出して楽しもう</u> 良寛・芭蕉など ◎知っている言葉を手がかりに情景を想像したり、日本語特有のリズムを感じたりしながら短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しむ。	伝国1)ア（ア）	1		昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	◎親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりさせる。短歌や俳句を作ってみたいと言う気持ちをもたせるように進める。	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。
6	漢字の広場② ◎絵を見て、2年生までに配当されている漢字を使った文を作る。	伝国1)イ（ク）・ウ（イ） 書1)オ	2		小学校第1，2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	◎文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。
	3 <u>ほうこくする文章を書こう</u> 「気になる記号」符号など ◎友達に報告する文章を書くために必要な事柄を調べ、示された構成に沿って段落を意識して文章を書く。 ◎文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。 ◎書いた文章を読み合い、意見や感想を伝え合う。 ◎句読点などを適切に打って書く。	書1)ア・イ・オ・カ 伝国1)イ（エ）	12		自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。  文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正す。  書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。	◎段落の役割を意識させて文章を構成するようにさせる。  ◎文節同士の関係などに間違いがないか確かめるようにさせる。  ◎考えの明確さや書き方の巧みさなどを述べ合うようにさせる。	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。  表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。  書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。
	<u>聞いて楽しもう</u> ばけくらべ	読1)ウ 伝国1)イ（オ）	1		場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	◎登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、叙述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。
	夏の楽しみ	伝国1)イ（オ） 書1)オ	1		文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正す。	◎文節同士の関係などに間違いがないか確かめるようにさせる。	表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。

7	4 <b>読んで、考えたことを発表しよう</b> 「海をかつとばせ」 ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読む。 ◎文章を読んで感じたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づく。	読(1)ウ・オ 書(1)ウ・カ 伝国(1)イ (オ)	8 (+1)	語彙力が不足しているので、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うことによって、発表する経験を積むことが重要である。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。  書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。	◎登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、記述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。  ◎考えの明確さや書き方の巧みさなどを述べ合うように進める。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。  書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。	
	漢字の広場③ ◎絵を見て、2年生までに配当されている漢字を使った文を作る。	伝国(1)イ (オ)・ ウ (イ) 書(1)オ	2		小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	◎文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	<b>用件や気持ちがつたわるように書こう</b> 手紙を書こう ◎用件を明確にし、目的や必要に応じて書き方を工夫して手紙を書く。 ◎相手や目的に応じ、敬体と常体を使い分けて書く。	書(1)ウ・エ 伝国(1)イ (ア)	4 (+1)	相手や目的に応じ、敬体と常体を使い分けて書くことは、難しい状態であるので、十分練習を積む必要がある。	語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く。	◎文章を段落的にとらえ、それぞれの段落の役割を効果的に表現するようにさせる。  ◎敬体と常体の指導は本学年だけになる。高学年で言語事項として適切に活用できるようにさせる。	事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。  引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。	
	<b>本は友だち</b> 本は友だち いろはにほへと ◎目的に応じ、いろいろな本や文章を選んで読む。 ◎相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。	読(1)カ 話・聞(1)イ・ウ・ エ 伝国(1)イ (ア)	6		相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。  姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話す。	◎相手や目的に応じて丁寧な言葉を選ぶ力を付けられるようにさせる。  ◎伝えたい内容を明確に伝える話し方を身に付けるようにさせる。	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わる話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。  共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話す。	
<b>詩を楽しもう</b> わたしと小鳥とすずと みいつけた ◎二つの詩を比べながら読み、詩の組み立てや内容がよく分かるように言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して音読する。	読(1)ア 話・聞(1)ウ 伝国(1)イ (オ)	2		語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する	◎文章に書かれていることを理解して音声化するようにさせる。	自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。		

9	5 <b>話し合って決めよう</b> 「わたしたちの学校行事」 インタビュー ◎互いの考えの共通点や相違点を考えながら、説明する内容や方法について話し合う。 ◎司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。 ◎準備をしたうえで、丁寧な言葉を用いるなど、適切な言葉遣いでインタビューをする。	話・聞(1)ア・イ・ウ・オ 伝国(1)イ (ア)	1 4		身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出す。  互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。	◎関心のあることから話題を決め、得た情報を整理し相互関係を付けられるようにさせる。  ◎司会者や提案者などの役割を経験する機会を設けるようにさせる。	考えた事や伝えたい事などから話題を決め、収集した知識や情報を関係付ける。  互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。	
	へんとつくり ◎漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつ。	伝国(1)ウ (ウ)	2		小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	◎文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	秋の楽しみ	伝国(1)イ (オ)	1		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。		文章の中での語句と語句との関係を理解する。	
10	ローマ字 ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。	伝国(1)ウ (ア)	5		平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。	◎主に地名や人物などの固有名詞といった簡単な単語を扱いながら指導する。	当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う。	
	1 <b>物語の感想をまとめよう</b> 「ちいちゃんのかげおくり」 ◎場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読む。 ◎細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書く。	読(1)ウ・エ・オ 書(1)イ・ウ・エ・カ 伝国(1)イ (オ)	1 2 (+ 2)	目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約することは、3学年の重要な指導内容なので、十分練習することが必要である。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。  文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。	◎登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、記述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。  ◎引用したことについて自分の考えをもつようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。  文章の構成や展開、表の特徴について、自分の考えをもつ。	
	漢字の広場④ ◎絵を見て、2年生までに配当されている漢字を使った文を作る。	伝国(1)イ (エ)・ウ (イ) 書(1)オ	2		小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	◎文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	修飾語 ◎修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。	伝国(1)イ (キ)	2 (+ 2)	修飾語は、定着が図りづらいので、十分練習を積む必要がある。	敬体で書かれた文章になれる。	◎指示語や接続語については、読みの指導の中で、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして扱う。	文や文章にはいろいろな構成があることについて理解する。	

11	2	せつめいのしかたを考えよう 「すがたをかえる大豆」 ◎中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解する。 ◎内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら読む。	読(1)ア・イ・エ 伝国(1)イ(カ)	7		時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。  文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。	◎筆者の意見と裏付ける事実や根拠を読むようにさせる。  ◎引用したことについて自分の考えをもつようにさせる。	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりする。  文章の構成や展開、表の特徴について、自分の考えをもつ。
		れいをあげてせつめいしよう 食べ物のひみつを教えます ◎「はじめ・中・おわり」の構成を意識し、「中」の例を絵と組み合わせながら段落に分けて書く。	書(1)ア・イ・ウ・カ 伝国(1)イ(ク)	6 (+1)	段落相互の関係などに注意して文章を構成することは、小学校第3、4学年において重要な指導事項であるので、十分に練習を積む必要がある。	自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。	◎各段落の役割を意識させて文章を構成するようにさせる。	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。
		声に出して楽しもう 一茶・百人一首など ◎知っている言葉を手がかりにして情景を想像したり、日本語特有のリズムを感じたりしながら短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しむ。	伝国(1)ア(ア)	1		昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	◎親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりさせる。短歌や俳句を作ってみたいと言う気持ちをもたせるようにさせる。	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。
		漢字の意味 ◎漢字には意味があることを理解し、前後の文脈から漢字の意味を考えて書いたり、その漢字の意味に合う短文を作ったりする。	伝国(1)イ(イ)・ウ(イ)	2		音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付く。	◎「漢字と仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に関心をもたせ、交ぜて書く利点に気付かせて、句読点を含め読みやすい表記を考えながら書く言語感覚を養うようにさせる。	じかんの経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。
	3	民話や物語の組み立てを考えよう 「三年とうげ」 ◎物語の組み立てをとらえ、登場人物の気持ちの変化や情景を想像する。 ◎物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づく。	読(1)ウ・オ 伝国(1)イ(オ)	6		場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。  文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。	◎登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、記述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むよう指導する。  ◎互いの感じ方や考え方の違いに気付くようにさせる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。  本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

1 2	<p><b>組み立てを考えて書こう</b></p> <p>物語を書こう</p> <p>◎経験したことや想像したことなどから物語の題材を決め、物語を書くうえで必要な事柄をあつめる。</p> <p>◎民話や昔話の組み立ての型を理解し、それを使って文章を構成する。</p> <p>◎場面の様子や人物の気持ちを詳しく書いたり会話文を入れたりして書く。</p>	書(1)ア・イ・ウ・エ・オ・カ 伝国(1)イ (エ)	7 (+1)	全体を見通して事柄を整理して書くという高学年への円滑な接続に重要なので、関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べ、書くこととすることの中心を明確にして書く練習が必要である。	経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を集める。	◎興味や関心を自分から深めていくようにさせる。	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。		
	<p>漢字の広場⑤</p> <p>◎絵を見て、2年生までに配当されている漢字を使った文を作る。</p>	伝国(1)ウ (イ) 書(1)オ	2		小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。	◎文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。		仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。	
	<p><b>言葉について考えよう</b></p> <p>にた意味の言葉、反対の意味の言葉</p> <p>◎類義語や対義語の使い方を考えながら、自分の考えや気持ちを伝え理解するために必要な語句を増やし、また、語句が共通して有する特徴で類別があることを理解する。</p>	伝国(1)イ (ア) (オ) 書(1)オ	6 (+1)	自分の考えや気持ちを豊かに表現できるところまでは到達していないので、必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解させ、活用させることが必要である。	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。			話し言葉と書き言葉との違いに気付く。	
	<p>冬の楽しみ</p> <p>◎表現したり理解したりするために必要な語句を増やす。</p>	伝国(1)イ (オ) 書(1)ア	1		句読点の打ち方や、かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使う。			文章の中での語句と語句との関係を理解する。	
1	<p><b>詩を楽しもう</b></p> <p>はしる しるしる じゃがいも 雪</p> <p>◎お気に入りの詩集を作るため、観点を決めて他の詩集を読む。</p>	読(1)ア・カ 書(1)カ 伝国(1)イ (ア)	4 (+1)	語彙が少ない傾向があるので、目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読み文学的興味を広げさせることが重要である。	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する	◎文章に書かれていることを理解して音声化するようにさせる。	自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。		
	<p>4 <b>かるたについて知ろう</b></p> <p>「かるた」</p> <p>◎それぞれの段落で中心となる語や文をとらえ、引用したり、小見出しをつけて整理したりする。</p> <p>◎「かるた」について調べる活動を通して、長い間使われてきたことわざや慣用句などの意味を知る。</p> <p>◎指示語の役割を理解し、使う。</p>	読(1)イ・エ・オ 書(1)ア 伝国(1)ア (イ)・イ (ク)	8 (+1)	目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約することは、3学年の重要な指導内容なので、十分練習することが必要である。	文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。	◎引用したことについて自分の考えをもつようにさせる。	文章の構成や展開、表の特徴について、自分の考えをもつ。	古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	

	<p>すじ道を立てて話そう</p> <p>しりょうから分かったことを発表しよう</p> <p>◎関心のあることなどから話題を決め、必要なことについて調べ、要点をまとめることができる。</p> <p>◎分かったこと、考えたことについて、筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。</p> <p>◎相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す。</p>	話・聞(1)ア・イ・ウ 伝国(1)イ(ク)	6		<p>相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気を付けて話す。</p> <p>姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話す。</p>	<p>○相手や目的に応じて丁寧な言葉を選ぶ力を付けられるよう指導する。</p> <p>○伝えたい内容を明確に伝える話し方を身に付けるよう指導する。</p>	<p>目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わる話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。</p> <p>共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話す。</p>		
2	<p>漢字の広場⑥</p> <p>◎絵を見て、2年生までに配当されている漢字を使った文を作る。</p>	伝国(1)ウ(イ) 書(1)オ	2		<p>小学校第1, 2学年までに、別表の「学年別漢字配当表」に配当されている漢字を読み漸次書き、文や文章の中で使う。</p>	<p>○文や文章を書く際、漢字の意味を考えながら正しく使ったり、既習の漢字を使う習慣を付けたりするようにさせる。</p>	<p>仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。</p>		
	<p>5 ほうこく書を書こう</p> <p>「本で調べて、ほうこくしよう」 自分の言葉でまとめる</p> <p>◎生活の中から調べたいことを決め、必要な事柄について本を読んで調べる。</p>	書(1)ア・イ・ウ 読(1)エ・カ 伝国(1)イ(カ)	16 (+1)	<p>関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることは、全体を見通して事柄を整理して書く、という高学年への円滑な接続に重要なので、十分練習が必要である。</p>	<p>経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集める。</p> <p>楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む。</p>	<p>○興味や関心を自分から深めていくようにさせる。</p> <p>○多様な目的に応じて読みたい内容を絞って読むようにさせる。</p>	<p>考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。</p> <p>目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。</p>		
3	<p>カンジーはかせの音訓遊び歌</p> <p>◎3年生で学習した漢字を読んだり、書いたりする。</p>	伝国(1)イ(ウ)・ウ(イ)	2		<p>言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付く。</p>	<p>○活用語尾について、送り仮名の原則的な付け方を理解させ、活用についての意識をもたせる。</p>	<p>送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書く。</p>		
	<p>6 物語を読んで、しょうかいしよう</p> <p>「モチモチの木」</p> <p>◎場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格をとらえて読む。</p> <p>◎紹介文を発表し合い、意見や感想を伝え合う。</p>	読(1)ウ・オ・カ 書(1)ア・ウ・オ・カ 伝国(1)イ(ア)	15 (+1)	<p>記述内容から、気持ちや情景を読み取る力が不足しているため、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと、また、意見を述べ合うことによって、発表する経験を積むことが必要である。</p>	<p>場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。</p> <p>書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。</p>	<p>○登場人物の言動をもとに気持ちの変化などを読み取るとともに、記述をもとに場面や情景の移り変わりなどを想像して読むようにさせる。</p> <p>○考えの明確さや書き方の巧みさなどを述べ合うようにさせる。</p>	<p>登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。</p> <p>書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。</p>		
	合計		245						